

天満川「舟入まほろば護岸」整備事業について

建設省 太田川工事事務所

正会員 ○堂 蘭 俊多

建設省 太田川工事事務所

先 瀬 啓二

パシフィックコンサルタンツ（株）

高 西 春二

1. 事業の背景・目的

“まほろば”とは「人が暮らす場所としてすぐれたところ」をさす古事記にある古来の言葉である。天満川「舟入まほろば護岸」では、世代・障害の有無をこえて、全ての人が水辺に安心して近づけるような護岸整備の設計を行った。

計画地である天満川舟入地区は、太田川下流部デルタ地帯のほぼ中央部に位置し、河岸周辺に広がる住宅地の中に、地域の保健・医療・福祉施設である広島市立舟入病院、広島原爆養護ホーム（むつみ園）が隣接している。したがって周辺住民のみならず、入院患者や来院者も安心して利用できる快適な水辺空間を創出することが求められていた。なお、将来的には、隣接する舟入公園との一体的整備によって、より質の高い地域福祉空間の形成を図ることも可能である。

このような背景を踏まえ、本事業は、当該地域に施工される予定の高潮堤防工事において、すべての人にやさしい親水性・安全性を兼ね備えた護岸整備を行うことを目的とする。

2. 検討会の設置・開催

本整備方針の決定にあたっては、合計14名の委員からなる検討会を設けて意見を伺った。メンバーは、福祉を中心とした学識経験者3名、画家1名、地元福祉施設代表2名、地元代表4名、行政（国、市）4名である。

3. 整備課題と整備方針

検討会にて、本整備計画にあたり設定した4つの基本理念に基づいて意見を伺った結果、各々の理念から導き出される整備課題・整備方針を図-1のように設定した。

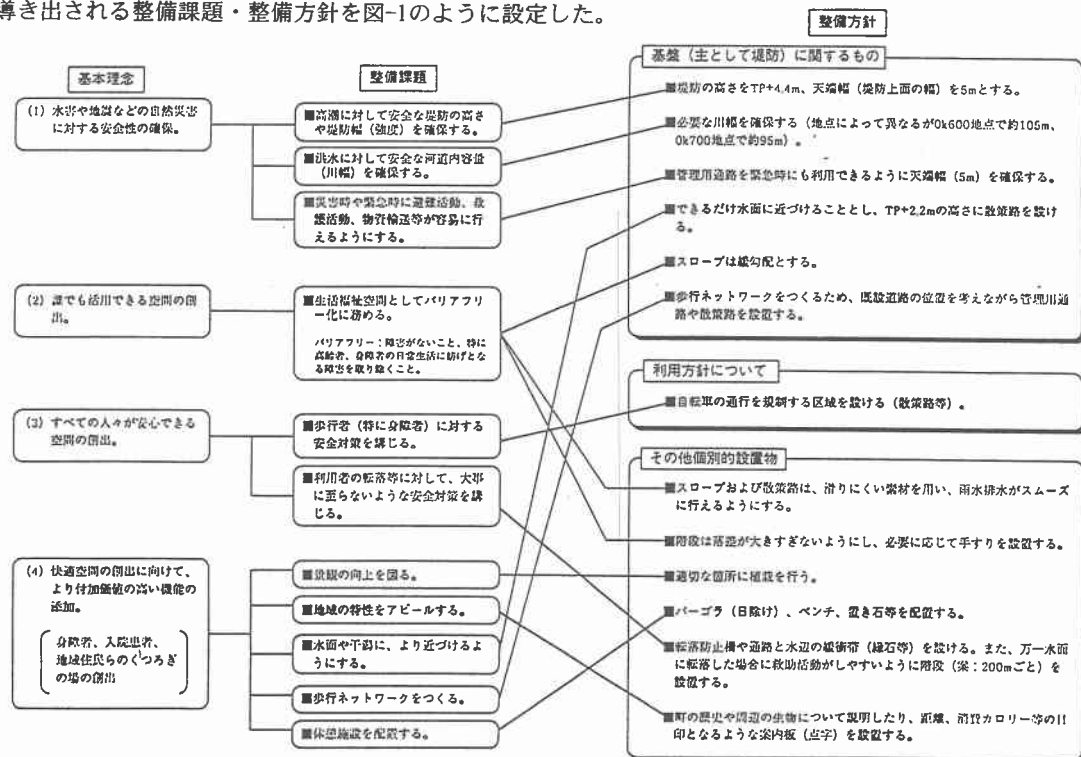


図-1 「舟入まほろば護岸」の基本理念と整備課題・整備方針

4. 概略設計

整備方針を踏まえ、概略設計（図-2）を行った。その一部を示したイメージパースは図-3参照。

不等流計算の結果を踏まえ最大の堤防前出しを行い、車椅子でも余裕をもって水面へ近づくことのできる小段（幅3～12m）を設け、堤防天端にも管理用通路（3m）以上の十分な余裕（5～12m）を持たせた。ベンチ付近にはプランターや日よけを設け、民地側には植樹を配置したほか、病院の患者のためのリハビリコースを設けるなど、福祉的空間としての充実を図った。

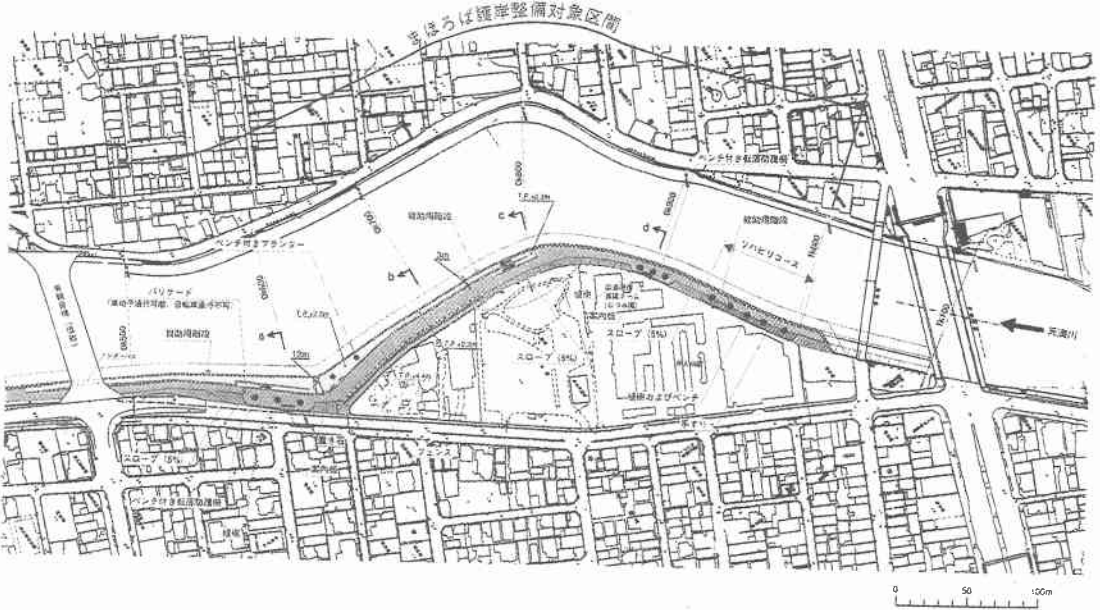


図-2 「舟入まほろば護岸」平面図（案）

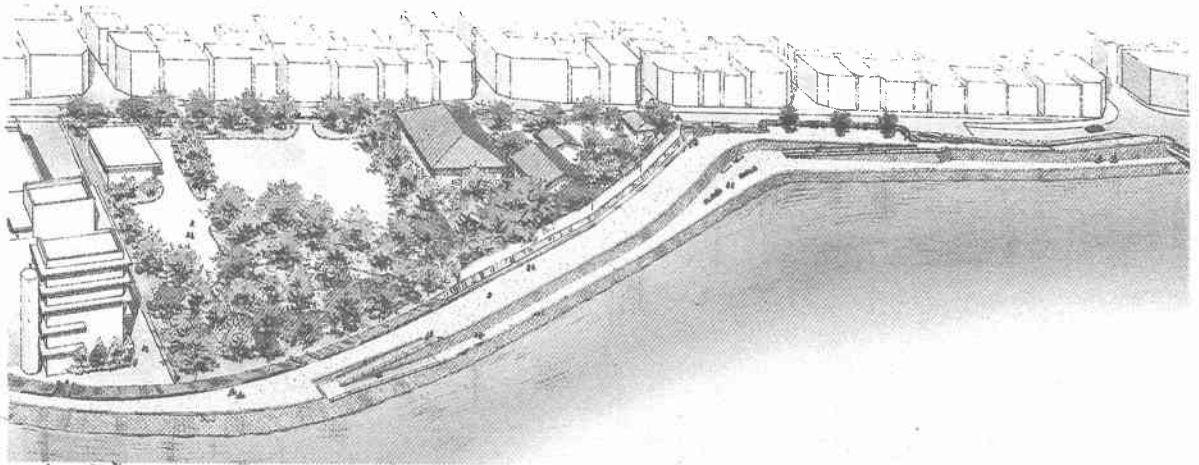


図-3 「舟入まほろば護岸」イメージパース（下流側半分）

5. 今後の課題

高さ4.4mに及ぶ高潮堤防は圧密沈下の関係で3段階に分けて施行している。したがって、「舟入まほろば護岸」の完成もこの手順に従えば平成17～18年度の完成となる。冒頭にも述べた通り、舟入公園との一帯整備が地元の要望であるため、今後は高潮堤防の完成の時期を待って、公園の詳細設計に入る必要がある。公園と高潮堤防の天端とが滑らかに擦り付けられれば、より両者の一体感が増し、地域の貴重な憩いの場として活用されるであろう。